

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス ZEST町田		
○保護者評価実施期間	2025年 2月 3日		2025年 2月 21日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	22	(回答者数) 10
○従業者評価実施期間	2025年 3月 1日		2025年 3月 20日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 4月 8日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	職種にとらわれず、職員間で意見交換・勉強会が行える	職員一人一人の得意を活かして、お互いに学び合える研修や勉強会の機会を作っている。また、朝礼・終礼時に意見が出やすくなるように、相手の意見を否定せず受容しながら意見交換するように努めている。	今後の支援の改善や自身の成長に繋がるように、今後学びたい内容を募り、さらなる学びの機会に繋げていく。
2	機能訓練(リハビリ)の内容に基づいた支援を提供できる	在籍している理学療法士が作成した個別の支援プログラムを全職員が確認し実践している。	個別プログラム以外の利用中の過ごし方が、関わる職員によって対応が異なり連携が取れていないことがあるため、見守りや集団活動の予定を事前に確認し、職員間で共通認識取れながら支援が出来るようにしていく。
3			

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	職員の配置数が足りないと感じる場面がある。	職員の休憩により、見守りの数が少ない時間帯がある。少ない職員数の状況で安全を確保しつつ提供できる支援(見守り方)の仕方を強化する必要がある。	職員採用を進めるだけでなく、個別の支援プログラムだけでなく、一人一人に対する支援の質を確保しながら、一人の職員が複数のお子様を見守りながら行えるプログラムを提供出来るように研修や勉強会を実施していく。
2	アセスメントが職員の経験や知識に偏っている	アセスメントツールは共通した書式を使っているが、目標設定を行う際に、職員の個々の見立てに偏ってしまうことがある。	個別支援計画の策定会議での意見交換だけでなく、目標設定の正当性や判断の仕方を学ぶ研修や勉強会を実施していく。
3	活動プログラムの立案がチームで行えていない	固定の職員が独自で用意し、内容の事前共有や役割分担が行えていない。	プログラムの内容を事前に把握できるように立案・周知の方法を検討していく。職員間で意見が出し合える仕組みづくりを進める。